3年生「**海の生き物のために(仮**)」(令和 2 年度 2 3 時間)

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	3	11
学習活	 1 有明海のことについて、知っていることを出し合う。 ・有明海の有名な生き物には、ムツゴロウがいる。 ・有明海で作られる海苔を食べたことがある。 ・めずらしい生き物がすんでいる。 2 「諏訪川や干潟、有明海の生き物を調べる」という課題をつくる。 ○ GT から有明海にすむ生き物について教えてもらう。 ※ GT としては「有明海を学ぶ会」の柿川さんや「荒尾干潟水鳥・湿地センター」の中村館長さんが考えられる。 ・海といっても海の底や浜辺、海の水と川の水が混ざったところなど、生き物によってすむ場所が違っている。詳しく調べてみよう。 ○ 有明海や諏訪川にすむ生き物を調べて、「有明海の生き物博士」になろうという課題をつくる。 ・生き物がどんな生活をしているか詳しく調べたい。 ・私たちが生き物のことを調べて、みんなに教えてあげよう。 	○ 生き物についての視点 ○ 生き物について(焦点化:グループで生き物を一つずつ) ・住んでいるところ、食べ物、特長等 ○ 海や川の楽しさについて
動	【四校合同】 3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。 ・みなと小学校:有明海の海中や汽水域 ・天領小学校 :有明海の干潟 ・駛馬小学校 :諏訪川中流 ・天の原小学校:諏訪川上流(野間川) → サワガニ・アメンボ・ゲンゴロウ・タカハヤ	【四校合同】(生物多様性) 5 それぞれの地域の川や海に住んでいる生き物について知り、それらを様々な人に知ってもらうという課題を設定する。 ○ 四校でそれぞれ調べた生き物の生態について交流する。 ・同じ水の中の生き物でも、好んでいる環境が全く違うんだね。 ○ 絶滅しかけている種もいるという事実から、それらを大切にするためにも生き物について発信するという課題をつくる。

段階	広げる段階		
配時	9		
	6 野間川や諏訪川、有明海に住む生き物の特徴などについて、地域等に		
	呼びかける。		
	○ 呼びかける方法について話し合い、表現物を作成する。		
	※「調べる段階」の合同授業における紹介を基に作成する。		
	○ 校内や地域に呼びかける。		
学	※ 校内掲示や公民館等への訪問で発信することが考えられる。		
1	その際、四校が作成した表現物を共有して、一緒に発信することが望		
	ましい。		
	○ これまでの学習を振り返り、まとめる。		
習	・知らなかった生き物のことについて知れてよかった。		
	・生き物にはそれぞれすみやすい環境があることが分かったから、その		
	環境をこわさないようにしなければいけない。		
活	・自分たち人間のことばかり考えていてはいけない。		
	【四校合同】		
	7 地域等に発信したこと(対象・方法・内容)について交流する。		
動	・他の地域にも私たちが調べた野間川の生き物を紹介してもらえた		
	ね。私たちも野間川だけでなく、他の学校の近くの川や海の生き物		
	を伝えることができたね。		
	・こんなに珍しい生き物がわたしたちの大牟田には住んでいるのだ		
	から、私たちが大人になってもこの生き物が住めるようにしてい		
	きたいね。		

4年生「海の環境のために(仮)」(令和2年度23時間)

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	1	11
<u> </u>	1 干潟観察等、3年生で学習したことを出し合う。 ・有明海にしかいない珍しい生き物が棲んでいる(前学年の知識)。 ・人間の生活の影響で絶滅しかけている生き物もいる(前学年の知識)。 2 「海の環境について調べる」という課題をつくる。 ○ 海の汚染が問題になっているということを知る。 ・生活排水や工場排水が海や川に流されて、水を汚しているんだな。魚たちがたくさん死んだりしているのもそのせいかな。 ・マイクロプラスチックを魚が食べて、その魚を人間が食べることで、人間にも悪い影響を与えているんだな。 ※ ユネスコが作成している動画を視聴させることも考えられる。 ○ 自分たちに身近で珍しい生き物の棲む有明海には環境問題が無いか調べるという課題をつくる。 ・世界の海と同じように有明海にも汚染や生き物の減少等の問題があるのか調べてみよう。 【四校合同】 3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。 ○ 海の環境は、生活排水やごみなどに原因があるのではないかという予想を立て、調べる場所を分担する。 ・みなと小学校:元三池海水浴場(沿岸部)・天領小学校 : 三池堰(河口部)・ 駛馬小学校 : 諏訪川周辺(中流部)・ 天の原小学校: 諏訪川周辺(上流部:鳴川)	4 諏訪川上流の生き物や水質について調べる。 ○ GT の話を聞く。 <u>※GT 柿川先生</u> ・3 年生では干潟の生き物を観察したけど、上流にはどんな生き物がいるのかな。 ・上流は、人があまり住んでいないから、ゴミも少ないんじゃないかな。 ○ 鳴川の生き物やゴミ・水質調査を行う。 ・干潟にいない生き物がいたよ。水がきれいだから、こんな生き物がいるんだね。 ・上流の水は透き通っていて水質もいいね。ゴミも少なくてきれいだな。 ○ 他校に報告するために、上流のゴミや水質について整理する。 ・上流には、ビニル袋やペットボトルなど、家から出るゴミが少ない。 ・川底が見えるくらい、水が透明だった。

段階	広げる段階		
配時	11		
	6 諏訪川、有明海のゴミの状況やそれらを減らすことについて、地域等に		
	呼びかける。		
	○ 呼びかける方法について話し合い、表現物を作成する。		
	※「調べる段階」の合同授業における紹介を基に作成する。		
	○ 校内や地域に呼びかける。		
学	※ 校内掲示や公民館等への訪問で発信することが考えられる。		
一十	その際、四校が作成した表現物を共有して、一緒に発信することが望		
	ましい。		
	○ これまでの学習を振り返り、まとめる。		
習	・3年生の干潟観察では、珍しい生き物がたくさんいた。鳴川にも、き		
	れいな水にしか住めない生き物もいた。それらの住み処を守るために		
	も、これからゴミのない川や海にしないといけない。		
活	・そもそも、出すゴミを減らすようにしたい。買い物にはエコバック、		
	必要な物以外は買わないなど、できることをしたい。		
	【四校合同】		
-C.I	7 地域等に発信したこと(対象・方法・内容)について交流する。		
動	・上流にはないゴミが下流にはたくさんあったけど、上流に住んでい		
	るからいいではなくて、私たちもゴミが川や海に流れないようゴ		
	ミを出すことを減らしていきたいね。		
	・私たちは、自分たちの地域に発信したけど、他の学校でも同じよう		
	な内容をそれぞれの地域に発信できたようだから、これが他の地		
	域にも広がっていくといいね。		

5年生「海と私たちのために(仮)」(令和2年度16時間)

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	2	7
	1 有明海や諏訪川・野間川のことについて、学んだことを出し合う。	4 玉川付近で行われている農業について調べる。 ※GT 山下さん
	・生活から出るごみが生き物に悪影響を与えている(前学年の知識)。	○ 農業に携わる方の話を聞き、山と産業とのかかわりについて調べる。
	・野間川をきれいにすることが有明海をきれいにすることにつながる(1学期の知識)。	・山(土・川)からの恵みがあるので、水田(米)をつくれるんだな。
	2 「有明海の人とのかかわりについて調べる」という課題をつくる。	・山からの養分が、川から海へと流れているんだな。だから、有明海
	○ 人が海を利用している場面について話し合う。(社会科の既習の想起)	で水産業ができるんだな。
学	・社会科で学習した通り、魚を獲って生活している人たちがいるね。	・山の役割や恵みのおかげで、農業や水産業ができるんだな。
	・有明海では、海苔の養殖が盛んだということを学習したね。	○ 玉川付近の農業の様子や諏訪川へのつながりについて調べる。
	・水揚げした魚をフェリーで輸送していたね。	・田んぼの近くには、湧き水が出ていて、細い川になっている。これ
	○ 四年生から視点を広げ、私たちは有明海とどのように関わっている	が、諏訪川につながっているんだな。
習	(利用している)のか調べるという課題をつくる。	・川の栄養分が減ったり川が汚れたりしないよう、様々な工夫をしな
	→四年生までは、「人の生活が、実は海に悪影響を与えている」という	がら米作りをしているんだな。
	消極的な関わりだった。五年生は「利用している」という積極的な	・農薬を使わず自然の力だけで行う農業には苦労もたくさんだけど、
活	関わりで考える。	その分自然の恵みを生かしながら、自然の恵みをこの先にも残すこ
,,,	【四校合同】	とができる素晴らしい方法なんだな。
	3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。	【四校合同】
動	│ ○ それぞれの校区の産業の様子や地理的特長に着目し、有明海と産	5 それぞれの地域で調べた産業と海、私たちの生活と自然(海や水)
	業の関わりを考え、調査対象を焦点化して調査を役割分担する。	とのかかわりについて知り、それらを様々な人に知ってもらうとい
	・みなと小学校:海に起因する自然災害	う課題を設定する。
	・天領小学校:運輸の面から見た三池港の働き	○ それぞれ調べた産業や自然とのかかわりについて交流する。
	・駛馬小学校:石炭輸出の歴史	○ 私たちの生活と自然とのかかわり(恩恵と災害)について発信す
	・天の原小学校:自然の恩恵を生かした農業、林業の役割	るという課題をつくる。 ・私たちは海や水とどのように付き合っていくべきだろうか。

段階	深める段階	広げる段階
配時	5 (社会)	7
	6 海を持続可能にするための取組について調べる。	7 私たちの生活と自然(海や水)とのかかわり方について、地域等に呼
	○ 林業における課題や取組について調べる。(社会科「森林とともに生きる」⑤)	びかける。
	・山の土の栄養分を豊富にするためには、森林を維持することが大切だ。	○ 呼びかける方法について話し合い、表現物を作成する。
	植林することで、森林の減少を防ぐ活動もしているんだな。	※「調べる段階」の合同授業における紹介を基に作成する。
	・間伐などをして日光が届くようにすることも森林や山の土にとっては	○ 校内や地域に呼びかける。
学	必要なことなんだな。	※ 校内掲示や公民館等への訪問で発信することが考えられる。
1	・豊かな山を守るための募金活動をしているところもあるんだな。	その際、四校が作成した表現物を共有して、一緒に発信することが望
	○ 農業や林業の視点から、川や海についての考えを整理する。	ましい。
	・川の水を綺麗にすることばかり考えてはいけないんだね。海に流れる	○ これまでの学習を振り返り、まとめる。
習	栄養分のことを考えて水を綺麗にする必要があるね。	・これからも海を活用しながら生活するためには、山の恵みを維持して
	・栄養分のある川の水を海へ送ることができるように、農業でも有機栽	いくことや農業や林業を工夫していくことが大切だね。
	培など、薬品を使わない取組がされている。私たちは川の水を汚さな	・私たちの生活はいい悪いにかかわらず、海や水と密接にかかわってい
活	いことが大切だ。	るんだね。自然にとっていいことは、私たちにとってもいいことかも
'-	・まずは、地産地消で地元の農家が作っているお米を買うことも、有機	しれない。だからこそ、自然によい行動をしていきたい。
	栽培を続けるための支えになるんじゃないかな。	
		【四校合同】
動		8 地域等に発信したこと(対象・方法・内容)について交流する。
		・みなと小学校の学習と私たちの学習を結びつけると、人の生活の
		豊かさだけを考えた自分勝手な行動も、自然のことを考えて行っ
		ている産業も、私たちの生活に返ってくることが分かった。
		・天領小学校と駛馬小学校の学習から、三池港が自分たちの住む大
		牟田にとって、これまでもこれからも大切な文化財だと分かった。